

「自立に向けたサポートブックづくり」

講師：本田恵子氏（早稲田大学教育学部教授）

平田郁絵氏（静岡県スクールカウンセラー）

小泉菜緒氏（東京都特別支援教室専門員）

日時：3月19日(日) 9時～12時

形式：対面／オンライン併用（中野国際コミュニティプラザ／Zoom）

本研修会では、自立に向けたサポートブック作りの題で、①なぜ自立が必要なのか、自立とは何を指すのかを知る ②チェックリストを使って子どもを見立てる ③自立のためのサポートブックを作成する の3部構成で講義が行われました。



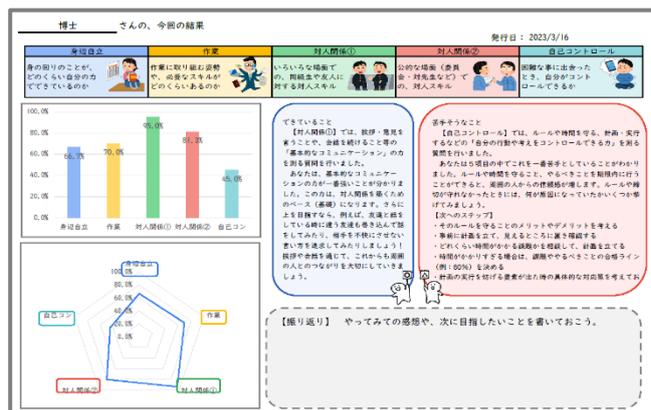
自立と自律

自立・自律にまつわる脳機能の基本に触れ、例えば時間通りに学校や職場にたどり着くためにはどのような力が必要なのかを具体的にいくつか挙げ、サポートブックの項目にもある身辺自立や、実行機能についての見立てや子ども自身のスキルを伸ばしていく大切さを学びました。

サポートブックのためのチェックリスト

参加者は事前に「気になる子供」についての32項目の質問リストへの記入が事前課題となっていました。そのチェックリストは、既存のチェックリストの「知的障害の方を想定されたものが多いこと」「『できないこと』が目立ってしまうこと」に課題意識を持った講師陣が、開発した独自のものです。新規のチェックリストは、①発達障害児に関わる質問を精選、②自立にむけた基本的な能力を項目に採用、③「～できる」と肯定的な文言で作成、④得意なことや苦手なことへの取り組みの明記などの多くの特長がありました。

チェックリストへの回答を基に、チェックシートが返却されました。チェックシートは右図のように、どの項目が得意でどの項目が苦手かなのが一目でわかるよう色分けやグラフに工夫がされており、チェックシートを見るだけでもその子どもの得意なことや苦手なことが整理され理解が深まりました。



サポートブックの作成演習

サポートブックとは、学校や就労の際にこの一冊があれば、支援者が変わっても同じ内容の支援を受けることが可能な「わたしの説明書」のことで、チェックシートをもとにして対象者と支援者が一緒に作成していきます。研修会の後半では、各自の事例についてグループに分かれてサポートブックを実際に作成しました。チェックシートから伸ばしたい項目を選択し、対象者の特徴的なできごとがおきそうな時（黄信号）、おきたとき（赤信号）を振り返ったり、その時に対象者自身が心がけることや、周囲に協力を求めること具体的に検討したりしました。



また、講師陣はサポートブックを作成するためのヒントになる「サポートブック教科書」を作成しており、チェックリストで見立てた内容を基にどのような支援が適切なのかをサポートブック教科書を使用しながら深めていくことができました。



あるグループでは、教科書に書いてあるヒントとなる支援から、2つの支援方法を掛け合わせたり、「こういう支援はどう？」と新たな支援方法が生み出されたりと、より対象者に適切な支援方法を考えようと、活発なグループワークが展開されました。

「この子これが苦手かな？」と経験や勘の見立てではなく、一定の視点からの見立て（チェックシート）を基に、多くの支援のヒント（サポートブック教科書）から適切な支援方法を導いて、対象者の「わたし説明書（サポートブック）」を作成することができました。

参加者の声

サポートブックのためのチェックリストが作られた背景に、うなずけることが多くあり、すぐにでも現場で活用していきたいと思いました。アセスメントを日々の指導や支援にまでつなぐということをついそう意識して取り組んでいきたいと思えます。

事例を通して、参加者同士が対話しながらシートを作成していく中で、たくさんの学びがありました。漠然と話をするのでなく、チェックシートがあることで話し合う視点が明確になると感じました。

アンケートに答えるだけで、気になる児童生徒の弱い点・強い点をグラフで一目瞭然に表して頂き驚きました。頭の中で混沌としていた悩みが一気に整頓された感覚です。

次回研修会（2023年度総会 記念講演）

2023年5月20日（土）18時～20時

「UDLの最新情報（仮）」

講師：バーンズ亀山静子氏

（NY州スクールサイコロジスト）